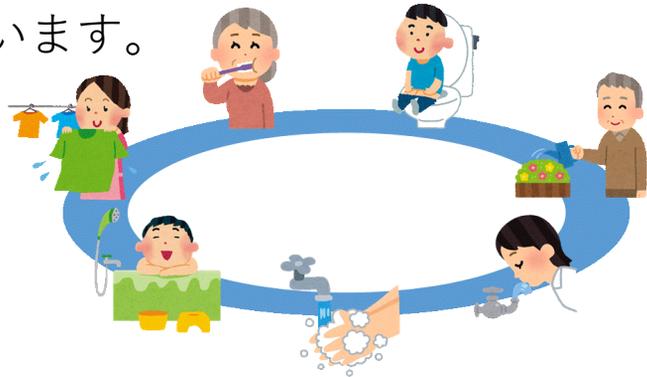


水をつうじて都市を支える

当たり前に水が使えるということ

水道は市民生活や都市活動に欠かせないライフラインです。普段、皆様が無気なく水を使われているご家庭の蛇口ですが、元をたどれば、市内一円に張り巡らされた長大なパイプラインや大量の飲料水を製造する大規模な水処理プラントにつながっています。これらの巨大なインフラを管理し、レベルアップさせること、また、水を通じて市民サービスを向上させることで、安全・快適な水が当たり前に見える大阪市を支える仕事に、私たちは全力で取り組んでいます。



市民の健康を守る

大阪市に水道ができる以前、コレラなどの水を介して感染する病気により、多くの市民が亡くなりました。世界を見渡すと、水道が未普及の地域では、同様のことが起こっています。安全な水道水に簡単にアクセスできることで、水を介した病気を防ぐとともに、お風呂・歯磨き・洗濯・トイレなどで水道水を使っていただくことで清潔な生活環境が保たれています。このように、水道局では、安全な水を安定的に、かつ低廉な価格で市民に提供することで、市民の健康を守っています。

火事から街を守る

市内を歩くと、道路のあちこちに「消火栓」と書いてある鉄蓋があるのはご存じでしょうか。普段は目立ちませんが、もし火事が起こった時には大活躍する設備です。水道局では、市内一円に張り巡らされたパイプラインにより、消火に使う水を提供しており、いつでもどこでも水が使えるということが、市民の財産を火事から守ることに役立っています。



(大阪市内の消火栓鉄蓋)



(大阪市消防局 HP)

一日100万トンの水を操る ～ 総合水運用センター ～

大阪市では、一日当たり100万 m^3 (500mlのペットボトル20億本分！！) を超える水道水をつくり、市内にくまなく届けています。水源である淀川の水質状況に応じて、3か所の浄水場で適切な浄水処理を行ったうえで、市内で使う水の量に合わせて過不足なく水をお届けしています。総合水運用センターでは、24時間365日休むことなく、これら施設の運転を一元的に管理しています。